



2023年2月13日

各位

会社名 株式会社和心  
代表者名 代表取締役 森 智宏  
(コード: 9271 東証グロース)  
問合せ先 経理部長 山邊 伸顕  
(TEL. 050-5243-3871)

**通期業績予想と実績との差異及び営業外収益及び営業外費用並びに特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ**

2022年12月期(2022年1月1日~2022年12月31日)の業績につきまして、2022年2月14日に公表いたしました通期業績予想と、本日公表しました2022年12月期の通期決算数値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせします。また、下記のとおり営業外収益及び営業外費用並びに特別利益及び特別損失を計上しましたのでお知らせいたします。

記

**1. 通期業績予想と実績との差異(2022年1月1日~2022年12月31日)**

(単位: 百万円)

	売上高	営業損失	経常損失	親会社株主に 帰属する 当期純損失	1株当たり 当期純損失
前回発表予想(A)	975	△181	△177	△177	△51.20
当期実績値(B)	996	△204	△216	△78	△22.05
増減額(B-A)	21	△23	△39	99	—
増減率(%)	2.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2021年12月期)	902	△487	△493	△554	△175.46

**2. 差異の理由**

当連結会計年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、出店計画の見直し、店舗の閉鎖を余儀なくされる状況となりました。出退店につきましては、出店はなく、退店が16店舗あり、期末の店舗数は合計29店舗(前年同期比16店舗減)となりました。2022年の訪日外客数は前年同期比1458.6%増加(出典: 日本政府観光局(JNTO))しておりますが、経済活動の制限が徐々に緩和されたことにより来店客数が前年同期比112.0%と戻りつつあるため増収となり、前回発表予想を上回りました。

利益面に関しては、店舗の閉鎖やコスト削減に努めましたが、原価上昇により、営業損失及び経常損失は前回発表予想を下回りました、また、持分変動利益や関係会社売却益により親会社株主に帰属する当期純利益は改善しました。

**3. 営業外収益の計上について**

当社は、2022年12月期第4四半期会計期間において、受取利息0千円、コンサルティング業務による受取手数料1,500千円、その他6,180千円、合計7,199千円を営業外収益として計上しました。

この結果、2022年12月期第4四半期累計期間の営業外収益計上額は、受取利息10千円、コンサルティング業務による受取手数料6,000千円、その他7,321千円、合計13,332千円であります。

#### 4. 営業外費用の計上について

当社は、2022年12月期第4四半期会計期間において、支払利息1,013千円、為替差損1,095千円、当社の持分法適用会社の業績悪化に伴う持分法による投資損失6,448千円、その他8千円、合計8,556千円を営業外費用として計上しました。

この結果、2022年12月期第4四半期累計期間の営業外費用計上額は支払利息4,690千円、為替差損1,095千円、持分法による投資損失19,571千円、その他9千円、合計25,367千円であります。

#### 5. 特別利益の計上について

当社は、2022年12月期第4四半期会計期間において、不動産の売却による固定資産売却益596千円、自治体からの休業等協力金等による助成金収入△11,924千円、持分変動利益8,034千円、事業譲渡益31,429千円、合計28,135千円を特別利益として計上しました。

この結果、2022年12月期第4四半期累計期間の特別利益計上額は、不動産の売却による固定資産売却益596千円、助成金収入17,202千円、持分変動利益79,477千円、関係会社株式売却益31,794千円、事業譲渡益31,429千円、合計160,500千円であります。

#### 6. 特別損失の計上について

2022年12月期第4四半期会計期間において、店舗の閉鎖等に伴う減損損失1,596千円及び固定資産除却損778千円、合計2,375千円を特別損失として計上しました。

この結果、2022年12月期第4四半期累計期間の特別損失計上額は、店舗の閉鎖等に伴う減損損失3,292千円及び固定資産除却損1,592千円、合計4,884千円であります。

#### 7. 業績に与える影響

上記の営業外収益及び営業外費用並びに特別利益及び特別損失につきましては、本日公表しました「2022年12月期決算短信」に反映しております。

以上